

地域おこし協力隊通信 (No. 35) 中種子町の出土品が重要文化財に指定

中種子町には国の重要文化財として古市家住宅が指定されているのはご存じのことと思うが、増田の三角山遺跡から出土の縄文時代草創期（1万3千年前）の364点の遺物（耳飾りや土器、石製の矢じりなど）が今年の7月23日に国の重要文化財に指定された。これらは縄文文化の始まりを知るうえで貴重な資料と言われている。隆帯文土器は表面にひも状の粘土を付け、指の腹や貝殻などを押し付けた模様があり、南九州で流行り日本全国に波及したという。完全に復元された出土品の一部は霧島市の上野原縄文の森で11月10日まで開催中の「新発見！かごしまの遺跡2019〜発掘調査速報展〜」で見られる。



さて、先日上野原縄文の森へ行ってきた。この上野原縄文の森では上野原遺跡の2万4千年前までの土層の断面を地層観察館で見ることができ。さてさて、ここで例の妄想。この地層の展示方法を応用して立切遺跡の落とし穴を展示できないものだろうか。なんといつても立切遺跡は3万5千年前の生活跡。旧石器時代の定説「移動しながら狩猟生活」を覆し、定住生活を行っていた可能性を示唆する貴重な証拠。歴史の教科書に出てきて鮮烈に記憶しているスペインのアルタミラの洞窟壁画を描いたクロマニヨン人より倍以上に古いのだ。国内最古級と言われている生活跡を展示することは将来の中種子町定住者増大につながる、かもです。

(山村)



美しいハーモニーが広がる 中種子中学校合唱コンクール

7月13日に種子島こりーなにおいて、中種子中学校の合唱コンクールが開催され、多くの関係者が来場しました。各クラス毎に行われた合唱は、練習の成果が大いに発揮されたレベルの高い内容に会場から盛大な拍手が送られました。

審査の結果、最優秀賞には金賞を受賞した3年1組が選ばれ、同じく金賞を受賞した2年2組が、県中学校音楽コンクール録音審査の部の学校代表に選ばれました。



3年1組 課題曲『大地讃頌』

一杯のお茶でリラックス お茶の入れ方講座



7月12日に種子島中央高校において、おもてなし活動に伴う出前授業として、日本茶インストラクターの山浦拓己さん（山浦製茶）が「お茶の入れ方講座」を開講しました。

お茶の基礎知識や種類、お茶のおもてなしの仕方や美味しいお茶の入れ方の科学的根拠などを学んだ後、実際に生徒自ら、お湯の温度や時間などに注意してお茶を入れ、試飲した生徒は「普段より美味しい」と笑みがこぼれました。